

ノーベル賞・ユヌスさんと対話

Our Eyes

3月7日から9日にかけて、神戸大などで「ESDシンポジウム イン K O B E」が行われた。

ESDとは「持続可能な開発のための教育」の略称。環境だけでなく、貧困、福祉、平和など広い視点を持ち、世界中の人々が安心して暮らせるよう、行動できる人材を育成する教育の

ことをいう。

9日は2006年のノーベル平和賞を受賞したムハマド・ユヌスさん（写真右端）を招いて、神戸大の学生とのトークセッション。

ユヌスさんはバングラデシュで、貧困層の女性に対する無担保少額融資「マイクロ・クレジット」を始め、1983年にグラミン銀行を創設。同国の女性や貧困層の経済的自立を促した。

セッションは2時間にわたり、ユヌスさんは「学生のメリットは自由であること。自分自身が幸福だと感じることを全力で追求してほしい」などと語りかけた。

参加した女子学生（2年）は「ユヌスさんは著書などを読んで尊敬していたので、間近で話せてうれしかった」と話していた。（神戸大NEWS NET・義原由樹子さん撮影）

